

道しるべの会

才能教育研究会 スズキ・メソッド 東海地区三科連絡協議会
スズキ・メソッド 東海オフィス
〒465-0093 名古屋市名東区一社1-89 寿山ビル4階
TEL&FAX: 052-753-9878
開所時間: 平日 10時~13時
e-mail: suzukimethod_tohkai@yahoo.co.jp

『読譜・楽譜』 講師: 加藤 寿子先生 (東濃支部)

日時: 2018年4月30日 (月・祝)

10時~11時30分

場所: スズキ・メソッド東海オフィス



♪4月30日に東海オフィスで行われた「道しるべの会」のご報告です。

今回の道しるべの会は東濃支部の加藤寿子先生をお招きして、「読譜・楽譜」をテーマにお話しいただきました。当日は30名(スタッフ含む)の方がお越しくださり、うち8名がお子さんと、オフィスの椅子が足りなくなるほどの盛況でした。

前回の道しるべの「卒業」において、曲が進むにつれどうしても避けられない「読譜」についてどのように行っていくか、読譜を通してどのように育てゆくのか、この「読譜の練習」を作られた鈴木先生の想いをお話しいただきました。

*前回の道しるべの記事も合わせてお読みいただければ幸いです。

♪ 読譜とは? *鈴木鎮一先生「直感への教育と教育センス」より抜粋とお話

- 読譜は楽譜を見て指とその位置からくる音感が直感的に速く分かる能力である。そのために直感の能力を高め、育てることが大切であること、そして“耳からの教育”からはじめ、それが育ってから楽譜を見始めると良い。
- 館ゆかり先生、末廣悦子先生お二人の読譜にまつわるエピソードの紹介

鈴木先生のご自宅で館先生と末廣先生がレッスンを受けていた頃、カナダのとある先生が見学なさっており、読譜について鈴木先生にお伺いされました。

ちょうどレッスンを受けていた館先生と末廣先生にカナダの先生から二重奏の楽譜を渡され初見で弾いてみてと言われたところ、やれこまったという状況になりながらも少しの間楽譜を読み込み、そして二人で楽譜通り立派に演奏されたそうです。

カナダの先生はその様子を見て納得し、そして鈴木先生はさらに音楽的になるよう練習しておいでと二人を別の部屋へ練習に向かわせます。その後戻ってきた二人はさらに音楽的にそして暗譜で演奏され、スズキ・メソッドで育った高い能力の姿にカナダの先生も驚きの様子でした・・・。

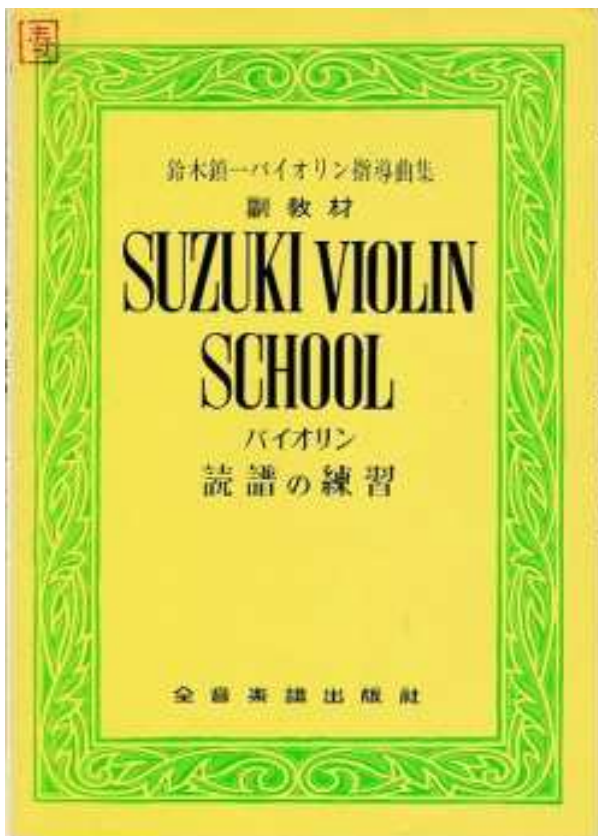
上記のエピソードより鈴木先生は「楽譜から音楽を感じる能力を読譜能力」と仰っています。

♪ 読譜の指導ということ、教材について

- 鈴木先生は、「訓練次第で誰でも譜は読めるようになる、読譜について子供たちに苦手意識を持たせてはいけない」とおっしゃっています。
- 1巻の教本4ページ目「学習の要点」を基に、**耳からの教育**と曲を繰り返しお稽古することで**直感の能力を育てること**、そして**音を立派にすることが大切です**。1～3巻までをしっかりと学習し、4巻あたりから読譜に入るとよいでしょう。
弾けるようになった曲の楽譜を見なおし、簡単な曲の楽譜に書かれている音符や記号を、音を出しながら確認してみてもよいでしょう。
- 副教材『読譜の練習』は初歩からの手ほどきを含め、楽典や音楽的表現も考察しながらヴァイオリンの読譜を行う上での重要なポイントをおさえて学ぶことができます。
各章の終わりには練習問題があり、最後には学んだことを生かして読譜用にまとめた素敵な曲の楽譜が載っています。

♪ 『読譜の練習』を使った読譜講座の時間

加藤先生ご指導の下、お越し頂いた30名の皆さんと一緒に配られた読譜の練習のプリントを見ながら、伊藤達哉先生のヴァイオリンの生演奏に合わせ、リズム打ち、メロディーを歌い、練習問題に取り組みました。オフィスに楽しく、幸せな時間が流れました。



家庭で教える子供の為の
ヴァイオリン読譜の練習 鈴木鎮一著

ヴァイオリンの楽譜がわからないのに苦学し強んでいらしめる方々の為に、出来るだけわかりやすい読譜の
ことや、そのおけいこや又は音楽の楽典についての知識、おけいこの仕方、子供さんが譜をみて弾けるようにす
る教材などについて、巻を出して書いてみようと思います。幸いに皆様のご参加になり、子供さんのおけいこ
の上にお役にたつ。皆様のお心が少しでも軽くなればうれしく思います。

巻末にある30の曲群
(3巻の楽典以外の)の曲

第一部
先ずヴァイオリンの開放弦の音符から

G D A E 弦

①の位置をバイオリン譜読みで弾きます。 ②は開放弦の意味です。

読譜のおけいこ

おけいこは一個三回くりかえす。

①ヴァイオリンはアレキサンダー練習をしません。楽典におおきなのは楽譜をみて指(01234)とその指の位置
から1の音域が、直感的に弾くわかる能力です。音名はそれからあとで指導します。開放弦だけ便宜上音名をつ
かいます。

♩……四分音符といひます。
 ♪……(♩ ♩ ♩ ♩) 八分音符といひます。

♩……二分音符といひます。(♩ ♩)

拍子 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

上のものは、拍子二つになります。

拍子記号

二分の二拍子  (緩々) 四分の四拍子  (わすんで) 四分の二拍子  (こまづね)

この記号は二分の二拍子といひます。拍子二つ (馬拍子)

♩ (二分音符) を拍子一つに数入るものです。

だから例の拍子は ♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ | でも二拍子に数入る。

四分の四拍子も同様とす。


四分音符が四つ ♩ ♩ ♩ ♩ で基本の一小節をなしていることを意味するのです。



等音四つの拍子の基本の中に括められているおけです。

四分の二拍子といひます。拍子二つ

四分音符二つで一小節。つまり ♩ を一つの拍子に二つに数入るということ。

拍子二つ  は ♩ を一つの拍子にして置くわけで、やはり二拍子であるわけなのです。

♪ まとめ

この「読譜の練習」には「家庭で教える子供のための」という副題がついています。家庭でのお稽古の一助となるよう鈴木先生の思いが込められています。

以下「読譜の練習」より抜粋

- ヴァイオリンの楽譜がわからない為に苦労し悩んでいらっしゃる方々の為に、出来るだけわかりやすく読譜のことや、そのおけいこやまたは音楽の楽典についての知識、おけいこの仕方、子供さんが譜をみて弾けるようにする上にお役にたち、皆様の悩みが少しでも軽くなれば嬉しいと思います

・読譜の教育法

指→頭脳→演奏……演奏能力がすぐれている。譜をみればすぐ指がわかる能力が必要です。音名→頭脳→指→頭脳→演奏……では遅いのです。

ヴァイオリンの指は……音指（おとゆび）……といってもよいかと思ひます。大切なのは譜をみた瞬間に指がその音の出る場所を打つ能力です。勿論音もわかります。音名はあとからでも知識として覚えればよいと思ひます。指と音と頭脳とが一つに働くようになった時、譜をみると音がすぐわかり、すぐにメロディがわかります。この才能教育の教育法は新しい一つの発見です。このことは言葉と文字のような関係です。まず言葉をいえるようにしてから文字を習うという順序を私は採用しているのです。

- 自分にはできないとすぐに決めてしまうことは全く自分を知らない人々です。現在できないのは、その能力を育てることが自分にはまだやっていない、というだけのことなのです。自分にはできない、ということとは違います。

他人に出来ることは

出来るように時間をかけ

出来るようになる正しいやり方をして

勤勉に反覆し能力を育てる努力をすること。

をやれば必ず自分にも出来る。という信念(心)を持ってください。才能教育の新條です。わが子にヴァイオリンほどの努力と時間と勤勉な心を必要とするものをやらせようとする親である以上、自分自身の場合、子の読譜能力を自分に育てるくらいの根気と努力は当然子供の為にも、やりとげて下さい。頼みます。

〔放棄する心〕を子供に育てないで下さい。

貴方がもし放棄の心をもっていらっしゃれば必ず貴方のお子様にもその心が育ちます。すぐに放棄するのは一種の怠け心が自分の中に育てているからだと思ってください。

子の読譜の能力を自分の中に育てる事業に対しても、ぜひ〔自分にはできない〕とあきらめしないで、自分の才能をコツコツとゆっくり根気よく育てる試験をご自分に試みてください。またヴァイオリンの能力を育てることも同じです。

実能力が育っていない(練習不足)のに曲を先へ先へと進めたがる人々は、わが子をやがて能力不足で、曲がだんだん難しくなり苦しみの地獄に子供を追いやる人々です。

時間をかけ、育つ当然の事をやってのみ人の能力は育つものだという真理を知る人になっていただきたいのです。

...

毎日お子様とともにご苦労なさっている努力の賜として筆で書き記すことができない大切な音楽の能力が皆様の中に育ってきていると思います。美しい曲だとか、気品が高いとか、感動のある曲だとか、音程が変だと感じる能力だとか、立派な演奏と下手の区別、感覚の優劣等々だんだんに実能力が高くなってきていらっしゃることと思います。そのような力の総合が実は音楽の力となるもので、毎日子供さんを育てようと努力していることから知らぬ間に、自分の中に大きな能力を育てていらっしゃるのだと思います。

♪ 感想

この本の各所に鈴木先生の(スズキ・メソードを通しての願い)本当に立派な人となるよう厳しくも愛情をもって接して下さっていることを感じ、襟を正す思いです。

子供は親の背中を見て育つといいますが、我々親が今一度この姿勢で取り組むとき、子供もきっとそれを感じそのように育つと信じて日々を過ごしたいと思いました。

普段の生活に追われ子供と向き合う時間が少ない中でも、これだけはとテーマを絞ってやっていくことの積み重ねが大事だと思います。理想を高くしすぎず、目の前のことを一つ一つ出来るようにし、子育てを通して一緒に自分も育つことを感じ、どこまで育つか楽しみながらできるよう考えるきっかけになりました。

加藤先生、素敵なお話ありがとうございました！

4月30日「道しるべの会」アンケートより皆様の声

♪参加理由

- 普段親が指番号を書いたりしているが、できるだけ子ども自身で楽譜を読んでもっと楽譜を見て練習してほしいと思っていたので、何か家で子どもに対する譜読みのヒントがもらえればと思い参加した。
- ひまだった。
- 加藤先生が講演なさると聞いて、これが最初で最後の機会になると思い、ぜひ聞きに行きたいと思った。
- 親に誘われた。
- 子どもが読譜ができない。
- 加藤先生のお話を聞きたかった。加藤先生がお話されるから。
- テーマがおもしろそうだった。
- 休日で来ることができた。
- 母に勉強がてら誘われて。
- 親が譜がよめず子どもが曲がひけず、又先生に言われていることがわからないので少しでも子どもに理解できるように親が教えれたらと思って参加した。
- 譜を見てすぐ指がわからないため。
- 読譜がテーマだったので。
- 長男が4巻に入ったが読譜ができず新しい課題曲をいただいた時には親がつきっきりで教えているが、どのようなアプローチで始めていけばいいかわからず参加した。
- 子どもの読譜能力を育てるのに苦労させてしまった。
- 読譜のことを再認識したかった。
- 読譜に興味があった。

♪参加した感想

- 前よりも読譜についての知識が増えてより読めるようになったと思う。
- おもしろかった。
- 楽しかった。
- 家庭でも活用したい。
- 楽しく読譜について学べた。
- 直感の能力、音楽を感じとる読譜能力を育てていけるよう頑張りたい。
- 「読譜の練習」という素晴らしい本があることを初めて知った。ぜひ、他の方々にも紹介して販売して欲しい。
- 練習問題が楽しかった。
- とても勉強になった。
- いつも何となくやり過ごしていた事を、改めて知ることができた。
- 実践問題などいろいろなことができて楽しかった。
- 子どもには、CDを聴かせるだけだったが、読譜もできるといいなと思った。
- 鈴木鎮一先生の言葉は、何度聞いても心にしみる。
- 全てヴァイオリン以外のことにも通じると思った。
- 全くやったことがなかったので、改めて勉強できた。
- 難しかった。
- 読譜一音名は分かっても、指がすぐに分からないので行き詰っていたが、親子でじっくり訓練

したい。

- とても勉強になった。早速テキストを買い求めたい。
- コツコツ努力する能力を親子で育て、努力したいと思う。
- 初めて参加した。
- とても良いお話、実際、譜読みを一緒に勉強でき、とても充実した時間だった。
- 是非、本を購入し、子どもと取り組みたいと思う。
- 4巻からは、母は全くわからなくなり、「先生次第」「私次第」としてしまった。読譜で努力と根気を育てる事を怠ったり、「怠け心」のまま、いい大人になってしまった事を改めて認識した。
- 鈴木鎮一先生の「人ができることは自分もできる」の気概を忘れずに、育てそこねてしまった自分の能力を、今からでも育てていきたいと思った。
- 「自分にはできない」でいつも終わってしまう自分への起爆剤となった。
- 子どもの時から「低〇、高〇」で育った世代なので、今は全科を卒業して改めて読譜することはどういう意味か反省した。
- 原点にかえて、レッスンの時にいかせたら良いなと思う。
- 普段聞けない先生のお考えが聞けてよかった。
- 読譜への鈴木鎮一先生のお考えが聞けてよかった。
- 「直感を育てる」教育は、日々の訓練・練習であることを実感した。
- 読譜はやはり難しい。
- 演奏に合わせて手拍子をするにより、音の長さを体感することができ、分かりやすかった。
- 読譜に対する考え方や、具体的な学習方法を楽しく知ることができた。



♪加藤寿子先生ありがとうございました♪

<道しるべの会 スタッフ>

伊藤 達哉（指導者）、浅田 美幸（西名古屋支部）、後藤 寿子（東濃支部）、
中村 和香子（東名古屋支部）、伊藤 登美子（西名古屋支部）